

2024 年度（令和 6 年度）全国学力・学習状況調査の結果分析（小学国語）

学校名 小坪小学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

結果の概要	設問 14 問中、全国の平均正答率を上回ったのは 7 問、下回ったのは 7 問であった。学習指導要領の「言語の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の 6 つの内容にわたっての出題で、そのうち「読むこと」についての内容では、対象問題数 3 題中、2 題全国の平均正答率を上回った。特に「登場人物の相互関係について、描写を基に捉える」については、全国の平均正答率を 9 % 程度上回った。「書くこと」については対象問題数 2 題のうち 1 題全国の平均正答率を上回った。また、「話すこと・聞くこと」については対象問題数 3 第のうち 2 題全国平均の正答率を上回った。特に、「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる」設問は全国の正答率を 13% 程度も上回っていた。 「言語の特徴や使い方に関する事項」は、対象問題数が 4 つあったがそのうちの 3 つが全国平均の正答率を下回った。特に「投げる」という漢字については全国の正答率を 8 % 以上下回った。また、「競技」という漢字も全国の正答率をやや下回っており正しく書けた児童は 40% 程度しかいなかった。 「情報の使い方に関する事項」は全国の平均をやや上回り、正答率も 90% 以上であった。最後に「我が国の言語文化に関する事項」では、対象問題数は 1 つであったが、全国平均の正答率を 7 % 程度下回った。
言葉の特徴や使い方に関する事項	○「話し言葉と書き言葉との違いを理解する」の設問の正答率は 79% と高く、全国の平均正答率よりも 3 パーセントほど高かった。 ●漢字の使い方については、2 題中何れも全国平均正答率を下回った。漢字については全国や神奈川県の前平均正答率よりもかなり低く、課題である。無回答率はどちらも 24.2% と、全国の前平均と比べても突出して高い割合であった。ドリルや漢字練習帳等を使用して、繰り返し定着するまで練習する必要がある。また、「文中の主語と述語との関係を捉える」の設問では、全国の前平均正答率を 4 % ほど下回っており、主述の関係を意識しながら文章を正しく読む習慣を培っていきたい。
情報の扱い方に関する事項	○「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかを見る」設問では、92% 弱の正答率でほとんどの児童がよく理解できていた。また、全国の前平均正答率よりも 5 % 上回った。
我が国の言語文化に関する事項	●「日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができるかどうかをみる」設問では全国の前平均正答率を 7 % 程度下回っている。本校では読み聞かせを熱心に行うなど読書活動の充実を図っているが、読書の意義を捉えるところまでは達成されていないと思われるので今後の課題として取り組んでいきたい。

話すこと・聞くこと	○「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるか」という設問では、全国平均正答率が 52.9%に対し、本校の正答率は 66.1%と 10%以上高かった。また、「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり、関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができるか」という設問でも、全国平均正答率を 10%以上上回り、74.2%であった。多くの児童がこの領域では理解できている。 ●「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるか」という設問では、正答率が 59.7%と全国平均の正答率よりも若干下回っていた。身近な材料から話題を展開させ伝えていく学習を、今後もスピーチやディベート、プレゼンテーション等の活動を通して充実させていきたい。
書くこと	○「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり、関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができるか」という設問では全国平均の正答率よりもやや上回り、正答率は 82.3%であった。多くの児童が理解できている。 ●「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるか」の設問では、神奈川県の前年度正答率よりは上回ったが、全国の平均正答率と比べるとほぼ同率であった。また、この設問は記述式ということもあり、正答率は 56.5%であった。ただし、無回答率は全国や神奈川県の前年度と比べてかなり低かった。ただ、記述式の解答に慣れていないか、苦手意識をもっている児童も一定数いる。設問に対し、粘り強く考える力を育成するとともに、作文や感想文など、「書く」学習に力を入れていきたい。
読むこと	○「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるか」の設問は全国の平均正答率より約 9 %上回った。また、「人物像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるか」の設問では全国の平均正答率より約 7 %上回った。いずれも 75%～80%近くの高い正答率であった。 ●「人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるか」という設問では、全国の平均正答率を約 6 %下回った。また、この設問は記述式であり正答率も 60%半ばであった。ただ、無回答率は全国平均よりも低かった。今回、記述式の設問が 2 題あったが、何れも正答率は他の設問と比べて低い傾向がみられたので、なるべく論述形式の問題に多く取り組ませるようにしたい。
児童質問紙 国語に関する質問 問 42～49 国 1・国 2	「国語の勉強は好きですか」の質問では、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答をした児童を併せると 55.4%であり、全国の割合 61%と比較すると約 6 %低い値であった。また、「国語の授業の内容はよく分かるか」の質問でも、全国の割合よりも約 6 %低い値であった。しかし、「国語の勉強は大切だと思うか」に「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答をした児童を併せると 96.4%であり、全国の割合 94.5%と比較すると約 2 %高い値であった。 さらに、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うか」の質問で、「当てはまる」と回答した児童は、69.6%で、全国の割合 61.8%より約 8 %高かった。児童は、国語の勉強が好きな割合は全国平均より低く、内容理解も全国平均より低い。国語の授業の大切さや将来の必要性についてはよく理解している。また、「今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題があり、それらの問題について、どのように解答したか」という質問は、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した児童は、全国の割合よりやや高く 81%であった。また、解答時間 45 分については、「時間が余った」と「ちょうどよかった」を合わせた割合は 36.5%しかおらず、全国の平均の割合 68.5%の半数程度であった。

2024 年度（令和 6 年度）全国学力・学習状況調査の結果分析（小学算数）

学校名 小坪小学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

結果の概要	設問 16 問中、全国の平均正答率を上回ったのは 10 問、下回ったのは 6 問であった。いずれも学習指導要領の「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の 5 領域のうち「測定」を除く 4 領域からの出題であったが、「図形」以外の 3 領域で全国の平均正答率を上回った。ただし、「図形」の領域も、全国の平均正答率を 0.1% 下回っただけでほぼ同率と見てよいだろう。次に、無回答率に注目してみると、設問 16 問中 3 問で、全国平均の値を上回った。無回答 3 問のうち、選択式が 1 問、短答式が 2 問であった。また、記述式の設問は 4 問出題されたが、全て全国の平均正答率を上回っており、しっかりと考え、答えを導き出す習慣はほぼ出来ていると思われる。しかし、データの活用領域の記述式の設問では、全国平均の値を下回っており、特に無回答率は 10% 近くあり多くの児童が回答できていなかった。尚、この設問の正答率は 27.4% と他の設問の回答率と比べ突出して低かった。
数と計算	○「はじめに持っていた折り紙の枚数を□枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ」設問は、95.2% の高い正答率で全国の平均正答率を約 7 % 上回った。また、「除数が 1/10 になった時の商の大きさについて正しいものを選ぶ」設問は、全国の平均正答率を 5 % 以上上回ったが、無回答率は 1.6% と全国の平均無回答率より若干上回ってしまった。さらに、「$350 \times 2 = 700$ であることを基に、350×16 の積の求め方と答えを書く」設問においても全国の平均正答率を 6 % 上回った。ただし、正答率は 60% 前半であり、約 40% 近くの児童は正しく理解できていない。 ●除数が小数である場合の除法の計算。具体的には「$540 \div 0.6$ の計算」は、全国の平均正答率より 6 % 近く下回り、正答率は 64.5% であった。ただし、無回答率は 1.6% で、全国平均の 3.1%、神奈川県平均の 4 % と比べると低かった。
図形	○「作成途中の直方体の見取り図について、辺として正しいものを選ぶ」設問では、93.5% の児童が理解できており、全国の平均正答率よりも 8 % 上回った。また、「五角柱の面の数を書き、そのわけを底面と側面に着目して書く」設問も 80% 以上の児童が理解できており、こちらも全国平均正答率を 8 パーセント程度上回った。 ●「直径 22cm のボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く」設問では、本校の正答率は、全国平均正答率より 6 % ほど下回った。しかも、30.6% と 3 割程度の児童しか理解できていない。また、無回答率も 8.1% と全設問の中で二番目に割合が大きかった。また、「円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ」設問では、全国平均正答率より 5 % 程度下回った。設問がやや複雑になると正答率が大きく下がってしまう傾向が見られた。今後の指導法の工夫が必要である。
変化と関係	○「3 分間で 180m 歩くことを基に、1800m を歩くのにかかる時間を書く」設問では、基本の問いなので、75.8% の児童が理解できており、全国平均正答率よりも 6 % 近く上回っていた。ただし、無回答率が 4.8% と高く、全国平均の 3.3% を上回っている。 ●「家から図書館までの自転車の速さが分速何 m かを書く」設問では、全国平均正答率よりも若干下回っており、正答率は 51.6% と半数程度の児童しか理解できていない。速さ・時間・距離（道のり）の関係式はしっかりと指導したい。

データの活用	○「円グラフから 2023 年の桜の開花日について、4 月の割合を読み取って書く」という円グラフの特徴を理解した上で、割合を読み取ることができるかどうかをみる設問では、85.5%の児童が理解できており、全国平均正答率よりも 5 パーセント近く上回った。また、「示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書く」設問では、全国平均正答率よりも若干上回ったが、正答率は 50%丁度で半数の児童しか理解できていない、しかも、無回答率も 4.8%と全国平均値よりも高い値であった。 ●「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる」設問では、正答率が 27.4%と全設問の中で最も低かった。しかも全国平均正答率 44.0%よりも 17%近く低かった。また、無回答率も記述式の設問ということもあり 9.7%と高い数値であった。記述式の問題には今後、多く触れることで慣れていく必要がある。
児童質問紙 算数に関する質問 問 50～57 算 1・算 2	「算数の勉強は好きか」という質問に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した割合は合わせて 73.2%で、全国平均の 61%及び神奈川県平均の 61.6%より 10%以上上回った結果となった。また「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うか」という設問には、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した割合は 100%で全国平均よりやや上回っていた。本校では多くの児童が算数が好きであり、将来必要なものだと思っているが、記述式の問題や応用問題、探究や発展的な問題には弱い児童も多いため、今後も積極的に主体的で対話的な学びを取り入れ、児童の実生活と関連づけながら、一層児童が興味・関心をもって算数の授業に取り組むことができるよう、指導の工夫をしていきたい。 一方、「算数の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていますか」という設問には、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した割合は併せて 89.2%で、全国平均よりは若干上回ってはいるが、「当てはまる」だけで全国平均と比べてみると、2%程度下回った。決まった公式を、決まった方法で使い、解くことも大切であるが、「公式を活用」する力を伸ばすには、計算や文章題など、自分なりに工夫して解く方法を考え、発表する学習も多く取り入れていく必要がある。 「今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題があったが、それらの問題について、どのように解答したか」という設問では、「書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあつた」と「書く問題は全く解答しなかった」と答えた児童の割合は、全国の割合より多いか同等であったため、より一層最後まで諦めず取り組む粘り強さが求められる。また、そのための指導の工夫も今後必要である。 解答時間 45 分については、「やや足りなかった」、「足りなかった」と回答した児童は、どちらも全国平均の割合よりかなり高かった。

2024 年度（令和 6 年度）全国学力・学習状況調査の結果分析（児童質問紙）

学校名 小坪小学校

特徴的なことや課題と考えられること等

子ども自身に関する質問で、「朝食を毎日食べているか」について、「当てはまる」と回答した児童の割合は、96.4%で、全国平均、神奈川県平均よりも 10%以上高い割合であった。一方、「毎日、同じくらいの時間に寝ているか」「毎日、同じくらいの時間に起きているか」についての質問では、「当てはまる」と回答した児童はそれぞれ 32.1%、51.8%で、これらは全国平均、および神奈川県平均を下回った。基本的な食習慣は全国的に比べたら身についているように感じるが、就寝時間・起床時間がまちまちであることなどから、引き続き家庭と協力しながら改善を求めている。

次に、「将来の夢や目標をもっていますか」という質問では、「当てはまる」と回答した児童は、55.4%と全国平均より 5 %程度低かった。さらに、「人の役に立つ人間になりたいか」という問いで「当てはまる」と回答した児童が 48.2%と、全国平均 71.1%より約 23%も低く、半数を割っていた。この時期の児童は、将来の目標はまだ決まっていけないのは仕方ないとしても、将来は何か人や社会の役に立ちたいと考える児童が予想より低い値だったことは重く受け止めたい。

学校生活に関して、「いじめは、どんなことがあってもいけないことだと思うか」という質問では、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した児童が 96.4%おり、全国平均、神奈川県平均とほぼ同等の割合であった。また、「人が困っているときは、進んで助けていますか」という質問で「当てはまる」と回答した児童は 30.4%で、全国平均より 16%も下回っていた。今年度から重点項目として挙げた「他者に対して思いやりの心をもち、人の心の痛みを感じられることができる」という人に成長してほしいことから、一層、道徳教育に力を入れていきたい。

地域や社会参加に関して、「地域や社会をよくするために、何かしてみたいと思いますか」の質問では、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した児童は 78.6%で、全国平均よりやや下回った。本校は地域と連携した活動を積極的に取り入れており、全国平均より下回ったとはいえ、80%近くの児童が地域貢献を意識しているようである。

「5 年生までに受けた授業で PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか」の質問では、69.6%の児童が「ほぼ毎日」と回答しており、全国平均 29.6%、及び神奈川県平均 25.3%より大きく上回っている。現在、児童一人に一台 chromebook を配布し、多くの授業で活用していることや指導する教員も研修等で活用の仕方に熟知してきたことによると思われる。特に、学習の中で、PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することについて 7 つの質問項目のうち「(1) 自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」、「(2) 分からないことがあった時に、すぐ調べることができる」、「(4) 画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる」及び「(6) 友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」の 4 項目について「とてもそう思う」、「そう思う」と回答した児童は全国平均の値と比べて上回っていた。引き続き、ICT の様々な活用を模索していきたい。

さらに、「5 年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」の質問では、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した児童の割合は 82.1%と、全国平均 67.6%よりも 14%以上上回っていた。また、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した児童の割合も 91.1%おり、全国平均より上回っていた。本校では、昨年度まで、逗子市教育委員会の委託研究を受け、総合的な学習の時間や生活科の授業を中心に主体的・対話的な活動を多く取り入れながら、研究を推進しており、これまでの取り組みが実を結んできたと言える。今後もより充実させながら実践を積み重ねていきたい。

2024 年度（令和 6 年度）全国学力・学習状況調査の結果を受けての学校としての取組

学校名 小坪小学校

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

①いじめの根絶に向けて

「いじめは、どんなことがあってもいけないことだと思うか」という質問では、3.6%の児童が、「どちらかと言えばあてはまらない」と回答しており、これは全国平均の値を上回っている、今後もいじめの根絶に向け、粘り強く指導していきたい。そして、全児童が「いじめは絶対に許さない」という意識をもつようになるまで、引き続き、道徳教育の充実等を一層進め、「いのちを大切にする授業」「友だちを大切にしたり、人を思いやる気持ちをもたせたりする授業」を多く取り入れ、いじめ・暴力の未然防止や早期発見・早期解決を目指す。

②支援教育の一層の充実に向けて

今年度は3名の教育相談コーディネーターに役割を分担しながら、相談業務を行い、養護教諭や管理職、場合によっては巡回スクールカウンセラーを交えて、きめ細やかなケース会を開いている。また、定期的に校内支援委員会、支援会議を開催し、教職員全体で支援の必要な児童についての情報共有を図っている。しかしながら、児童質問紙で「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の問いで、「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」と答えた児童の割合が44.6%と全国平均の割合（32.8%）より多いことや、軽重含め、新たなケースも増加していることから、一次支援を重点的な柱とし、支援教育の一層の充実を図っていく。

③校内研究の推進に向けて

昨年度まで逗子市教育委員会より委託を受け、「総合的な学習の時間」「生活科」を柱に、授業の中で「主体的・対話的で深い学び」の展開を積極的に行っている。児童自ら課題を見つけ、解決しようとしたり、話し合い活動を通して、自分の考えや友だちの考えを伝え合ったりする活動を多く取り入れた授業を進めてきた。今年度は、「授業を通した学びの集団づくりをめざして」というテーマで研究を進め、学級づくりの原点に立ち返ることで、全ての子どもたちにとって楽しく分かりやすい授業を探求し、いじめのない学級、不登校を生まない学級を目指していく。

④地域連携の強化に向けて

今年度より、コミュニティスクールが立ち上がり、今後益々地域との双方向による連携が進んでくるであろう。今回の調査結果では、「地域や社会をよくするために、何かしてみたいと思いますか」の質問では、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した児童は78.6%と高い値であったことから、児童は地域と積極的に関わることを欲しているようである。海や山など自然豊かな小坪地区で、地域の方と関わりながら共に児童の育成を担うことが大切であると感じた。そして、学校でも「地域に開かれた学校」、「地域と協働する教員」をスローガンに、地域との連携を一層強化していく。

⑤ICT教育の推進に向けて

すでに児童一人ひとりにchromebookが配布され、様々な授業や行事等で活用を図っている。児童質問紙の「学校で受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用したか」の質問では、「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した児童は併せて94.6%おり、児童の関心度は高い。今後、学級や学年閉鎖になった時や、学校が休校した時はもちろん反転学習として日常自宅でICT機器を使用する際、chromebookのより効果的な活用の仕方等については、引き続き検討していく必要がある。いずれにせよ引き続き、chromebookを使った実践事例を増やしていき、教員同士で共有を進めていく。